

第2回聖籠町生涯活躍のまち構想研究会 議事要旨

| | |
|-----|---|
| 日 時 | 平成28年8月10日(水) 13時30分～15時10分 |
| 場 所 | 聖籠町役場会議室 |
| 出席者 | 委 員：窪田昌行会長、天尾壮一郎委員、石塚純委員、岩村正史委員、鈴木典子委員、 地濃茂雄委員、手嶋京子委員、樋口友貴委員、三品勝義委員、 望月健三郎オブザーバー(代理) 聖籠町：近藤総務課長、高松総務課長補佐、中山保健福祉課長補佐、牧野主任 日本総合研究所：渡辺康英、堀米剛 |

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

(1) 移住希望者アンケートの実施内容について

- 事務局 資料説明(聖籠町の概要(参考資料)、アンケート調査の概要(資料1①))
- 委員 聖籠町の特性など示した上で回答させたほうがよいのではないか。
- 会長 聖籠町はインフラなどが整っている。聖籠町の良さや取り組みを示して、回答させたい。
- 委員 聖籠町がどこにあるのか知らない人も多い。情報を提供したほうが良い。
- 委員 転入者から転入した理由や町の課題を事前に把握したらどうか。そして、町の特性と課題を紹介してから回答を求めたらどうか。
- 会長 他の方はどうか。
- 委員 聖籠町では、新潟市に近く新しい住宅が増えている。子育てに手厚いため、若い人が移り住む。しかし、子供が高校生や大学生になると町を離れてしまう。若い人は永住しないと思う。どうしたら聖籠町に定住してもらえるのかを考えるべきではないか。
- 委員 聖籠町のアピール以外に、聖籠町には何を期待しているのか、自由回答欄を設けて尋ねたらどうか。学力と所得には関連があり、聖籠町に移り住む人の学力と所得を考えないと、将来、聖籠町は大変になるのではないか。
- 委員 移住に関心がある人を、どのように抽出するのか。移住に関心のある人に回答を求めるならば、設問7は必要ないのではないか。聖籠町は人口が増加しているが、社会増加であり、企業の進出や転勤によるものだろう。東港の企業の転勤者にアンケートをとったらどうか。役職定年者などは、移住の可能性があるのではないか。第二の人生を検討している人が、調査対象になるのではないかと。新潟は東京圏の人々から雪が多い地域、遠い地域と思われる。回答者に対する判断材料として、距離、気候、所得水準などを入れたらどうか。
- 会長 CCRCの入居者は、50歳代以上が対象になるのではないかと。若い人を調査対象にするべきかどうか。東京圏の調査対象者は、50、60、70歳代の第二の人生を過ごす人々を対象にしたらどうか。
- 委員 個人的には若い人の回答も知りたい。自由回答欄があったほうがよい。東港、さくらんぼ

- など、聖籠町のイメージを尋ねたらどうか。
- 委員 Fの設問17は唐突ではないか。聖籠町の特徴を示した上で、尋ねたらどうか。移住先のライバル候補地を尋ねたらどうか。
- 委員 前段に聖籠町の紹介があって、こうした設問につなげたほうが良い。聖籠町に暮らしている人、聖籠町から一旦転出した人、事情があって転入した人、一時的に滞在している人の4タイプの町民がいる。こうした人々が暮らしている理由をメッセージとして紹介すると、回答者にとって分かりやすくなるのではないか。設問はこれでよいが、設問14は部屋数ではなく、住み心地の良い住宅など尋ね方を工夫したらどうか。
- 会長 聖籠町の地域特性が分からないと回答しにくいはずである。
- 委員 新潟県の海側は雪が少ないという気候の特徴は知られていない。聖籠町のPRが必要ではないか。介護離職が生じているが、転勤では家族を連れて行けるかどうか重要なことである。聖籠町では高齢者も連れて転勤できる町にすると良いのではないか。
- 委員 聖籠町出身者からなる東京聖籠会がある。聖籠町から東京に出た人々はずっと東京に住むのか、アンケートができるの良いのではないか。
- 委員 東港の企業の勤務者を、アンケートの対象にすべきではないか。また、聖籠町は新潟市内へ通勤可能であり、転入を呼び込む対象として、新潟市内の人々が対象になるのではないのか。新潟に縁のある人、縁のない人を調査対象としてもよいのではないのか。
- 会長 聖籠町を魅力ある町にして、人を集めることになるのではないか。移住に関心ある人を、どのようにスクリーニングするのか。東京圏、新潟市、東港で調査対象者を区切る方法もあるのではないか。また、インターネットアンケート調査は、調査票が固まれば短時間で調査ができるので、時間をかけて調査票を設計しても良いのではないか。移住して来た人、転勤して来た人の課題を聞いて、インターネットアンケート調査をしても良いのではないのか。
- 委員 地域の魅力を示すべきである。聖籠町は何を魅力としてアピールしようとしているのか。噛み砕いて紹介すべきではないか。他の町とどこが異なるのか、示したらどうか。
- 委員 東京に転出した次男、三男が、聖籠町に戻ってもらえるようにアンケート調査ができないのか。聖籠町に戻る確率が高いのではないか。町の特性をいくら説明しても、東京圏の在住者は回答しにくいのではないか。
- 委員 聖籠町の出身者を調査対象にするならば同窓会を活用してアンケートを行うしかない。どうやって同窓会に入り込むことができるのか。
- 委員 聖籠町は暮らしやすいにも関わらず、偏差値重視の進路指導が行われ、県立大学をつくっても、県外からの学生が多い状況である。相手を見て、アンケートを行うことがベストであり、身近な設問が良いかもしれない。
- 委員 資料によると、スクリーニングは、まだ決まっていないのではないか。
- 事務局 移住への関心をモニターに問いかけて、回答者を抽出することを予定していた。ご意見を踏まえて、東港の転勤者に対してアンケート調査を実施し、聖籠町の特長や課題を把握し、それをインターネットアンケート調査に反映させるといった二段階の調査を行うことを事務局内で検討したい。
- 会長 今回出された意見を踏まえて、事務局で実施方法等を検討して欲しい。

(2) 町の福祉の動向について

- 事務局 資料説明（町の福祉の動向（資料2））
- 委員 項目3で、要介護認定率は県内で低いにも係らず、聖籠町の介護保険料が高いが、どうしてなのか。
- 事務局 施設系の運営に費用がかかり、介護保険料が高くなっている。
- 会長 施設系が多いと介護保険料は高くなる。和光市では要介護認定率が低いが、介護予防に経費をかけている。今後、高齢者が増えるため、地域包括ケアを充実させ在宅で看取りをしないと財政的に厳しくなる。今後は地域包括ケアに舵をきるべきである。
- 委員 CCRCを推進して介護保険料が高くなれば、町民にとって問題となる。
- 会長 既存の介護関連施設等のインフラを活用し、介護予防に力を入れ、地域包括ケアを機能させる必要がある。
- 委員 そうしないと町民は満足できないだろう。
- 会長 施設系とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設などのことである。
- 事務局 聖籠町では人口規模の割りに、入所施設、受け入れ病床数が多い。
- 委員 40歳以上の人口規模との関係で、介護保険料が上がる場合がある。
- 会長 介護予防に力を入れることで、介護保険料が改善する場合もある。
- 委員 介護保険は一般会計から繰り入れているのか。
- 事務局 一般会計からの繰り入れは国保では行っているが、介護保険で行っていない。
- 会長 要介護認定率を改善しないといけない。
- 委員 聖籠町では、CCRCを実施しないという選択肢もあるのか。高齢者が転入することで、町民が不利益にならないのか。すでに、町民にも格差が生まれて生活が苦しい人もいる。
- 会長 今回の構想づくりの中で、経済効果についてプラス面とマイナス面を検討するので、判断してもらうことになる。
- 委員 総合戦略には、医療・福祉の特化係数が1を超えていることが示されているが、聖籠町では特徴ある産業なのか。
- 事務局 就業者数が比較的多いということである。
- 委員 今後、認知症の問題が大きくなるだろう。施設には容易に入れられないため、家族が面倒をみることになるが、子供達は東京に転出している状況である。
- 会長 地域包括ケアのモデルは、北欧やオランダである。地域包括ケアの仕組みを整え、地域の共同体を再度つくることになる。認知症にどのように取り組むのか、検討しなければならない。
- 委員 工夫すれば、魅力ある地域、仕組みができるのではないかと。
- 委員 町民への影響を避けるのか、あるいは、コミュニティを広く捉えてみんなで支えることにするのか。みんなで支え合うことに、期待ができるのではないかと。
- 会長 自立型の住まいは、日本ではできていない。CCRCでは自立者を受け入れ、介護予防に取り組み、高齢者の自立を支えることになる。
- 委員 CCRCは、老後の人生設計として捉えることができる。
- 会長 CCRCでは自立者を招き入れ、割合としては少ないが最後まで看取る仕組みを整え、魅力あるまちをつくるのが重要である。
- 委員 「共有する」ということが重要ではないかと。東京から熊本へボランティアに行くことがポ

ランティアではない。誤解されている。地域の中で、被害を受けていない人が、被害を受けている人に手助けすることがボランティアである。助け合う、共有することが重要である。「共有」を打ち出したい。

会長 事務局で検討して欲しい。

(3) 今後のスケジュール(案)について

事務局 資料説明(聖籠町生涯活躍のまち構想研究会スケジュール案(資料3))

委員 研究会での議事録等は、どのように取り扱うのか。

事務局 要旨を記録して、委員の皆さんに配布する。

委員 財政上の影響も検討するのか。施設の投資額や保険財政も検討するのか。

事務局 CCRCの施設整備は、事業者が行うと捉えている。次回の研究会は10月を予定している。

4. 閉会

以上